

平成 30 年度一般財団法人全国訪問看護事業協会 総会
訪問看護事業者(管理者)大会
報告

2019 年 3 月 11 日

訪問看護ステーションフォレスト熊本 森安玲子

開催日時：平成 31 年 3 月 1 日

10：50～11：40・・・総会

12：40～16：30・・・訪問看護事業者(管理者)大会

開催場所：日本医師会館

1、総会

会員 4434 名 出席 183 事業所、委任状 2636 にて総会は成立した。

伊藤雅治事業協会会長が開会あいさつをされ、来賓挨拶では厚生労働省保健局医療課企画官の眞鍋馨氏、日本医師会の横倉義武会長、日本看護協会の齋藤訓子副会長が福井トシ子会長の代読をされた。会の議長は京都大原記念病院の児玉先生が選出された。

平成 30 年度事業進捗状況

- 1) 会議の開催状況は総会(年 2 回)、理事会、各 7 つの委員会(運営委員会・訪問看護推進委員会(小児訪問看護)・精神訪問看護推進委員会・研究委員会・研修委員会・広報編集委員会・研究倫理審査委員会)が開催されていた。
- 2) 事業実施状況として(一部抜粋)、○要望書の提出 ○「訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力に関する研究事業」⇒6 月 20 日総会に調査結果を報告。書籍を出版(平成 31 年 2 月)、予防・対応啓発ポスターの作成 ○災害の支援平成 30 年大阪府北部地震、7 月に西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震と立て続けに大きな災害が起こり、水没したステーション自動車等が流失した大きな被害を受けたステーションの支援として義援金を集め総額 415 万円をお届けした。○ベトナムと韓国との交流 ○国内視察(石川県の佛子園と富山型デイサービスのこのゆびとーまれ)

2019 年度事業計画・・・基本方針は「訪問看護の安定的な供給の確保と質の向上を図り事業者を支援し、全国の訪問看護師が生き生きと働けるような環境を整備するための支援を行う。訪問看護を必要とする方に必要な看護を提供し、在宅療養者やその家族があんしんして、尊厳をもって自立した生活が送れるよう支援する。

また、65 歳以上の高齢者がピークとなり生産年齢世代が減少し続ける 2040 年を見据えて、より効率的・効果的な訪問看護の提供に貢献できる体制整備や地域で働く訪問看護の支援を行いながら、住民や地域の多様な主体が参画する地域共生社会を目指す。

これらの実現に向けて「訪問看護アクションプラン 2025」に元好き、他機関・多職種と連携して訪問看護の推進を図る。

1) 2019年度重点課題としてI地域包括ケアの実現を目指し、訪問看護をはじめとする在宅サービスがより国民に届くようにするために、訪問看護事業所・関連事業の設置や大規模化・多機能化の促進等、2025年に向けて訪問看護の推進に取り組む II 訪問看護事業所が、各地域で都道府県訪問看護ステーション協議会や行政と一緒に、訪問看護の量的確保や質の向上の為の事業推進に取り組めるよう支援する。

2)訪問看護推進事業として新しいものは(一部抜粋)、○在日外国人への対応も含め訪問看護のありかたについて検討会を設置。○小児訪問看護ができる訪問看護事業所を増やす事を目的とした研修プログラムをモデル的に実施、検証を行う。○はばたき福祉事業団が実施する薬害 HIV 感染被害者健康訪問相談の協力訪問看護事業所のリスト(登録)の更新、研修会の企画。○精神訪問看護に関する統一した知識・技術を身に着けることができるよう研修に資するテキストの作成。情報提供事業として会員安全確保の観点から訪問看護事業共済で取り扱う「訪問看護師賠償責任保険」「クレームサポート補償」「弁護士に相談できるような保険」等をお知らせしていく。

2)収支予算(案)は特に質問もなく決議された。

3)役員について・・・常任理事 鈴木邦彦(平成 31 年 3 月 1 日辞任)

理事 江澤和彦(平成 31 年 3 月 1 日選任)

2、訪問看護事業者(管理者)大会

特別講演：「人魚の眠る家を撮影して」 講師：堤 幸彦(映画監督)

<簡単にわかりやすく見てきたような嘘をつく>ということが我々の仕事と言われた。監督が 1979 年に地獄の AD をされていた頃は、同じ職場に秋元康やサザンオールスターズの桑田佳祐がいて楽しそうにやっていた時代であったそうだ。監督の映画は 40 本、代表は「20 世紀少年」のシリーズや若年性アルツハイマー病の「明日の記憶(渡辺兼主演)」等々、ドラマは「金田一少年の事件簿」等多数、舞台も「魔界転生」の演出などにかかわられ、WEB 配信にも作品を載せているとの事であった。今回の「人魚の眠る家」では母親役の篠原涼子や祖母役の松坂慶子が子役の稲垣来泉ちゃんをベッドに寝せて、体位交換や吸引、口腔保清の実際を猛特訓したとの事であった。また実際に在宅介護をされている横浜の小児の家にも訪問され、小児や母親の話をもとに、環境の様子等映像に細やかに反映されたとの事であった。講演の日の夜の 21:00 に日本アカデミー賞最優秀主演女優賞発表があるので応援してくださいと言われていた(残念ながら最優秀賞は「万引き家族」の安藤サクラであった)。最後に、監督のご両親は在宅での看取りをされており、監督の姉とともに在宅介護を訪問看護を経験したとの事であった。今後は訪問看護師さんたちの映像も撮りたいと考えていると言ってくださった。

シンポジウム

「小児レスパイトケア日々の暮らしも、ハレの日も」

NPO 法人渦リン理事長/ひばりクリニック院長 高橋明彦氏

「医療的ケア児」を地域で育てよう

KIDS ゆらりん管理者 村松 恵

「小児の訪問看護と行政との連携・キラキラキッズキャンプと会議のみのりカフェ」

訪問看護ステーションはーと管理者 木戸恵子氏

「医療的ケア児の未来へつなぐ生活」

先天的要因である重度障碍児のママ 友岡宏江氏・じゅのちゃん

それぞれの立場から、それぞれの取り組みの発表があった。会場から、小児訪問看護は経験がない、小児訪問看護に求められるものは？との質問があった。高橋先生からは、今、小児の患者が増えている状態である。慣れていないステーションは経験豊富なステーションと組んで、小児の訪問看護にも参入してほしいと回答された。13 トリソミーの8歳の娘を持つ母親の友岡氏からは、「入院中から来ていただくと安心です。母親になんでも何でも聞いてほしいです。少しずつ関係ができていきます。」と言われ、自身も患児を持つ村松氏も「一緒に伴走してくれる看護師さんで、人柄が一番です。看護師さんに高度なスキルは求めていません」と回答された。また、退院の時に訪問看護をすすめているけど、母親が受け入れてくれない。との質問に対し、高橋先生は「在宅医療を受けるということは、訪問看護とセットでないと、24時間の対応ができない。と言っています」と回答された。

<総会、管理者大会に参加して>

訪問看護はいろいろな場面で今後さらに求められている事を実感できた。人員の確保や質の向上の為に支援して下さる事業協会の情報をキャッチし、活用しながら、スキルを高めるツールとして活用していきたい。小児の訪問看護も地域や行政、教育としっかり連携をとりながら進めていく必要があると再認識できた。熊本県連絡協議会においても、小児訪問看護の情報交換会を積極的に企画していく必要があると考える。総会、管理者大会に参加させていただき、ありがとうございました。